

全労連社会保障闘争本部ニュース

NO.128

全労連社会保障闘争本部発行

2020 年 11 月 19 日



コロナ禍 いのちとくらしと雇用と地域を守る



政府・国会要請行動

国民春闘共闘は、11月12日、国会内で政府要請・国会議員要請行動を展開しました。要請内容は、新型コロナウイルスの感染拡大をうけた経済悪化下で年末にむけた雇用関係の要求、特に、安易な解雇が生じないよう法

による規制を行うとともに、労働者に対する休業手当を法律で8割以上とすることなど企業の雇用責任を果たさせ、雇用流動化政策からの転換を図ること。②今後のコロナ感染拡大などの事態に対応できる医療・介護・福祉とするため十分な財源確保をおこない、国民負担を軽減すること。公立公的病院の統合再編や地域医療構想の見直しと、保健所の増設、保健師等の増員など公衆衛生行政の充実を図ること。コロナ禍における医療・福祉分野での長時間過重労働と低賃金・不安定雇用・処遇格差をなくし、安定した良質な雇用を実現すること。2021年度の年金改定は減額しないことと、基礎年金の国の負担分をすべての高齢者に保障することなどをもとめて行動。

社会保障分野では、32 人が参加。厚生労働省に対して、いのち署名の項目と来年の年金削減の改定を行わないことなどを求めました。また、国会議員に対して、「いのち署名」への賛同と紹介議員となってもらうよう要請。10、11 日に日本医労連が同様の要請を国会議員に行っており、12 日の行動と合わせて衆参全国国議員に要請しました。 日現在、紹介議員を応諾していただいた議員は 88 人です。引き続き要請を地域で強めていただくようお願いします。

●紹介議員を応諾いただいた議員 84 人 賛同 4 人●紹介議員応諾 ○賛同

地域で引き続き紹介議員になっていただく要請のとりくみをお願いします。

衆議院 紹介議員 51 賛同 2

逢坂 誠二	おおさか せいじ	立民	北海道 8	●
佐々木 隆博	ささき たかひろ	立民	北海道 6	●
道下 大樹	みちした だいき	立民	北海道 1	●
早稲田 夕季	わせだ ゆき	立民	神奈川 4	●
菊田 真紀子	きくた まきこ	立民	新潟 4	●
黒岩 宇洋	くろいわ たかひろ	立民	新潟 3	●
下条 みつ	しもじょう みつ	立民	長野 2	●
佐藤 公治	さとう こうじ	立民	広島 6	●
白石 洋一	しらいし よういち	立民	愛媛 3	●
岩屋 毅	いわや たけし	自民	大分 3	●
川内 博史	かわうち ひろし	立民	鹿児島 1	●
赤嶺 政賢	あかみね せいけん	共産	沖縄 1	●
照屋 寛徳	てるや かんとく	立民	沖縄 2	●
神谷 裕	かみや ひろし	立民	(比) 北海道	●
岡本 あき子	おかもと あきこ	立民	(比) 東北	●
寺田 学	てらた まなぶ	立民	(比) 東北	●
緑川 貴士	みどりかわ たかし	立民	(比) 東北	●
山崎 誠	やまざき まこと	立民	(比) 東北	●
青山 大人	あおやま やまと	立民	(比) 北関東	●
浅野 哲	あさの さとし	国民	(比) 北関東	●
塩川 鉄也	しおかわ てつや	共産	(比) 北関東	●
長谷川 嘉一	はせがわ かいち	立民	(比) 北関東	●
山川 百合子	やまかわ ゆりこ	立民	(比) 北関東	○
伊藤 俊輔	いとう しゅんすけ	立民	(比) 東京	●
笠井 亮	かさい あきら	共産	(比) 東京	●
宮本 徹	みやもと とおる	共産	(比) 東京	●
生方 幸夫	うぶかた ゆきお	立民	(比) 南関東	●

奥野 総一郎	おくの そういちろう	立民	(比) 南関東	●
篠原 豪	しのはら ごう	立民	(比) 南関東	●
岡本 充功	おかもと みつのり	立民	(比) 東海	○
源馬 謙太郎	げんま けんたろう	立民	(比) 東海	●
関 健一郎	せき けんいちろう	立民	(比) 東海	●
日吉 雄太	ひよし ゆうた	立民	(比) 東海	●
牧 義夫	まき よしお	立民	(比) 東海	●
松田 功	まつだ いさお	立民	(比) 東海	●
本村 伸子	もとむら のぶこ	共産	(比) 東海	●
吉田 統彦	よしだ つねひこ	立民	(比) 東海	●
斎藤 洋明	さいとう ひろあき	自民	(比) 北陸信越	●
藤野 保史	ふじの やすふみ	共産	(比) 北陸信越	●
松平 浩一	まつだいら こういち	立民	(比) 北陸信越	●
務台 俊介	むたい しゅんすけ	自民	(比) 北陸信越	●
穀田 恵二	こくた けいじ	共産	(比) 近畿	●
櫻井 周	さくらい しゅう	立民	(比) 近畿	●
清水 忠史	しみず ただし	共産	(比) 近畿	●
村上 史好	むらかみ ふみよし	立民	(比) 近畿	●
津村 啓介	つむら けいすけ	立民	(比) 中国	●
柚木 道義	ゆのき みちよし	立民	(比) 中国	●
武内 則男	たけうち のりお	立民	(比) 四国	●
稲富 修二	いなとみ しゅうじ	立民	(比) 九州	●
吉良 州司	きら しゅうじ	立民	(比) 九州	●
田村 貴昭	たむら たかあき	共産	(比) 九州	●
矢上 雅義	やがみ まさよし	立民	(比) 九州	●
横光 克彦	よこみつ かつひこ	立民	(比) 九州	●

参議院 紹介議員 33 賛同 2

勝部 賢志	かつべ けんじ	立憲	北海道	○
徳永 エリ	とくなが えり	立憲	北海道	●
長谷川 岳	はせがわ がく	自民	北海道	●
木戸口 英司	きどぐち えいじ	立憲	岩手	●
横沢 高德	よこさわ たかのり	立憲	岩手	●
寺田 静	てらた しずか	無	秋田	●
石垣 のりこ	いしがき のりこ	立憲	宮城	●
芳賀 道也	はが みちや	民主	山形	●

舟山 康江	ふなやま やすえ	民主	山形	●
上田 清司	うえだ きよし	民主	埼玉	●
伊藤 岳	いとう がく	共産	埼玉	●
真山 勇一	まやま ゆういち	立憲	神奈川	●
打越 さく良	うちこし さくら	立憲	新潟	●
森 ゆうこ	もり ゆうこ	立憲	新潟	●
宮沢 由佳	みやざわ ゆか	立憲	山梨	●
杉尾 秀哉	すぎお ひでや	立憲	長野	●
吉良 よし子	きら よしこ	共産	東京	●
山添 拓	やまぞえ たく	共産	東京	●
倉林 明子	くらばやし あきこ	共産	京都	●
ながえ 孝子	ながえ たかこ	碧水	愛媛	●
古賀 之士	こが ゆきひと	立憲	福岡	○
野田 国義	のだ くによし	立憲	福岡	●
伊波 洋一	いは よういち	沖縄	沖縄	●
高良 鉄美	たから てつみ	沖縄	沖縄	●
市田 忠義	いちだ ただよし	共産	比例	●
川田 龍平	かわだ りゅうへい	立憲	比例	●
岩渕 友	いわぶち とも	共産	比例	●
小池 晃	こいけ あきら	共産	比例	●
福島 みずほ	ふくしま みずほ	立憲	比例	●
木村 英子	きむら えいこ	れ新	比例	●
大門 実紀史	だいもん みきし	共産	比例	●
武田 良介	たけだ りょうすけ	共産	比例	●
田村 智子	たむら ともこ	共産	比例	●
山下 芳生	やました よしき	共産	比例	●
船後 靖彦	ふなご やすひこ	れ新	比例	●

自助・共助ではなく国の責任で国民のいのち守る対策を 厚生労働省要請

政府要請では全労連・前田副議長があいさつ。「コロナ禍で政府も役所も国民生活そのものも一変してしまった。健康、命、高齢者の暮らしの問題含めて、自助・共助と自己責任ばかりを強調されても限界だ。株価は上がっても、年末一時金では極めて厳しい回答が出ている。中小の経営者からも切実な声が上がっており、生活できない非正規の労働者もたくさん出ている。コロナの感染者数は高止まりしている。そうした状況だからこそ、私たちの声を聞いてほしい」と要請しました。

続いて厚労省より回答がありました。公的・公立病院の再編に関しては、「機能分化し、効率化のための地域医療構想の実現を考える材料として調査結果を提供した。それぞれの地域で議論してほしい」、医療機関への支援に関しては、「すでに確保している予算、予備費で対応していく」、コロナ対策としての検査は「拡充していく」など、従来の政府見解から大きな変化は見られませんでした。

これに対して、参加者からは切迫する現場の状況を訴え、早急な対策強化を求めました。

日本医労連 寺園さん

予算が足りない中で、なぜ軍事費が過去最高になってしまうのか

「責任感や正義感だけでは、この先の第二波、第三波を乗り切ることにはできない。医療の高度化は進んでいるが、医療従事者の働き方は悪化する一方だ。保育園に子どもを迎えに行くと、自分の子どもだけが別室に入れられたり、預かり拒否をされたり、美容室の予約を断られたりなど、差別的な扱いを受けており、強いストレスを感じる人が増えている。予算が足りない中で、なぜ軍事費が過去最高になってしまうのか。抜本的な財源の確保が必要だ」

自治労連 高柳さん

保健所は、現在パンク状態だ

「保健所は、現在パンク状態だ。いまだに人員不足は深刻で長時間過密労働が続いている。職員がそういう状況ということは、住民対応ができていないということ。地方行革で保健所にかかわる人員を減らしてきたことが原因だ。人材育成もされていない。他の部署から応援をまわしているが、それでは本来やらなくてはならない業務ができない。職員のアンケートでは、春に人や物資が足りないとの声があったが、いまだに言われている。「いま」何ができるかをしっかり考えてほしい」

国公労連 大門さん

国立感染症研究所の予算と人員は、あまりにも脆弱

「国立感染症研究所の予算と人員は、アメリカと比べてもあまりにも脆弱。予算のうち、研究に使えるのは20億円ではほぼ経費に消えてしまい、個人が予算を獲得しなければならない状況には無理がある。任期付き研究者が増えているが、2〜3年で結果は出ない。もっと正規職員を増やすべき。現場の研究者の声も踏まえた議論をしてほしい」

福祉保育労 民谷さん

職員を増やす、賃金を上げる、PCR検査を同時に行わないと、福祉、介護分野が崩壊する

「外出を控えるように要請がある。職員の生活は実質的に制限されており、家族と利用者もリモート面会のみになり、その不満が職員に向かっている。世田谷、神戸は独自施策を進めているが、国として定期的なPCR検査を実施してほしい。職員を増やす、賃金を上げる、PCR検査を同時に行わないと、福祉、介護分野が崩壊する。重大な危機を迎えているという危機感を持ってほしい。第3次予算は、第2次の規模でなく、大幅増と、職員の増員と大幅賃上げを実現できる報酬改定が必要だ」

年金者組合 加藤さん

年金減額は高齢者に対する経済的虐待

「年金は命綱、半数以上の方が年金だけを頼りに暮らしている。年金改定の実施が来年度あるが、物価と賃金の変動率の組み合わせがどんな状態でも低い方に合わせて年金額を決定することになっている。キャリアオーバー制と合わせて、年金減額は高齢者に対する経済的虐待ともいえる状態になる。小渕政権の時に3年連続で物価が下がったときに年金は下げなかった。来年の年金減額はしないよう強く訴える」

保健所の実態

感染症担当職員のほとんどは、連日深夜まで業務

（『自治体の仲間』11月号より）自治労連が全国の仲間と協力して、コロナ危機における保健所の実態調査（関連記事）を行い、10月12日に中間報告を記者会見で発表しました。調査内容と現場からの声が報道され、改めて「公衆衛生の重要性と自治体の役割」が大きく注目されました。記者会見に参加した仲間から現場の実態を聞きました。

各所の応援受けるも続く長時間労働

自治労連公衆衛生部会として記者会見に臨んだ梁瀬（やなせ）和美さん（千葉県職労保健所協議会議長／下写真の左）は診療放射線技師として保健所に勤務。

千葉県では、これまで4800人以上の感染が確認され、梁瀬さんが働く松戸保健所でも600人の感染を確認。1日10件を超える報告が連続することもありました。

4月にコロナ対策本部が設けられて、保健所内や県庁・各市からの応援、非常勤職員採用や人材派遣も合わせて、日中20人を超える人員で対応していますが、感染症担当職員のほとんどは、連日深夜まで業務を行っている状況が続いています。

梁瀬さんの本来業務は結核関連。現在、コロナに関わる入院勧告書、就業制限通知書や解除通知書などの対応、入院自己負担額算定の業務などを応援で行っています。

梁瀬さんは「4月の人事で感染症対応の職員は1人増員したが、結核対応は逆に1人減員した。さらに結核対応の保健師1人も常時コロナ対応を行っており、本来業務の体制は厳しい。しかし、結核も感染病なので、住民のため、接触者の健診や治療終了者のフォローなど必要業務を維持している」と話します。

公衆衛生や医療現場の人員増・体制強化を

正規職員の人員増について、7月に公衆衛生部会として厚生労働省と交渉。しかし、厚生労働省は、「交付税の関係もあるので、年度途中の増員は難しい」「非常勤や民間を活用してほしい」との回答に終始。「やはり担当職員・正規職員を増員してほしい」と梁瀬さん。

10月27日には千葉県職労が、県当局と交渉を行いました。梁瀬さんは「職員の労働改善を図らなければ、住民対応は悪化する」「土休日の対応と年末年始はどうなるのか」「10月に初めて土日の連休がようやく取れた職員もいる」と訴えました。

また、交渉で千葉県職労の片山敦史委員長も、「人員体制などで県民の期待に十分に添えなかったもどかしさと連日の残業で、職員は疲弊した」「これまで長年にわたって当局に増員での体制強化を求めてきたが、一向に改善されてこなかった」と語ります。

千葉県職労は、あらためて公衆衛生や医療現場の人員増・体制強化の実現をめざしていきます。

